

国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 251
2019.5 ▶ 6

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しみ、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2019 年 5 月 1 日
編集・発行 一般財団法人千里文化財団

6 月 6 日（木）開幕！企画展



サウジアラビア、 オアシスに生きる女性たちの 50 年 ——「みられる私」より「みる私」

1960 年代末にサウジアラビア西部のオアシスで撮影された貴重な写真と、色鮮やかな衣服や装飾品、生活道具を手がかりに、サウジアラビア女性の生活世界の変遷を紹介する企画展が 6 月に開幕します。展示される写真は、民博名誉教授の片倉もとこ先生（1937-2013）が調査の際に撮りためたもの。撮影当時、サウジアラビアでの長期の調査は、ほとんど不可能だと考えられていたそうです。

衣服のミニチュアを型紙からつくるワークショップなどを予定、友の会でも関連する講演会を 7 月 6 日に実施します（3 ページ参照）。サウジアラビアの女性たちがヴェールの内側からみつめる世界を、展示をとおしてご覧ください。

会期：6 月 6 日（木）～ 9 月 10 日（火） 会場：本館 2 階企画展示場

国立科学博物館（東京・上野公園）で開催中！

国立民族学博物館・国立科学博物館共同企画展

ビーズ—自然をつなぐ・世界をつなぐ

会期：6 月 16 日（日）まで
会場：国立科学博物館 日本館 1 階 企画展示室

国立科学博物館（かはく）と国立民族学博物館（みんぱく）がビーズを”魅せる”コラボレーション！

みんぱくのビーズがかはくの展示場にお目見えします。

みんぱく友の会会員のみなさまは会員証のご提示で、上記展覧会を団体料金で見学していただけます。

5/25（土）に国立科学博物館で開催するトークイベント「ヒトってなんだ??—ホモ・サピエンスの誕生から文化の獲得まで」は定員に達したため受付を終了しました。

たくさんのお申し込みありがとうございました。

展示観覧料一部改定のお知らせ

2019 年 6 月 6 日（木）より、みんぱくの本館展示観覧料が一部改定されます。友の会会員のみなさまは、かわらず会員証のご提示でご入館いただけます。

	～ 6/4（火）	6/6（木）～
一般	420 円	580 円
大学生	250 円	250 円
高校生	250 円	無料
中学生以下	無料	無料

※特別展観覧料はその都度お知らせいたします。

阪急生活楽校にみんぱくの研究者が登場します

講演会

物語は極上の嗜好品 — 女性が愛したアラビアンナイト

講師：西尾 哲夫（民博教授）

日時：8 月 27 日（火）14:00～15:30（開場 13:30）

会場：阪急うめだホール（阪急うめだ本店 9 階）／定員 300 名

参加費：1,000 円（友の会会員は無料）

アラビアンナイトは 18 世紀、ヨーロッパの宮廷社会において人気を博し、その後、世界文学の座へとつめられました。貴婦人がたの嗜好を意識し、ときには内容を改変して翻訳されたといわれています。物語は西欧の女性をどのように魅了し、物語からどのような中東の女性像が読み解けるのか。「女性」を鍵にアラビアンナイトの世界に誘います。

物語の語り部シェヘラザード
（ヴァージニア・ステレット画）



お問い合わせ、お申し込みは友の会事務局まで。
友の会ホームページの受付フォームをご利用ください
<https://www.senri-f.or.jp/eventgakko2/>





インド洋海域世界、アフリカ東沿岸部（スワヒリ世界）の歴史を研究されている鈴木英明先生が、昨年八月に民博に着任されました。インド洋世界との出会いやその魅力、現在取り組まれている研究課題についてお聞きしました。

——海の世界を研究している原点には、子どものころから冒険に憧れていたことや、父の転勤で海外に行つて日本とは全く違う世界に触れたことがあると思います。直接のきっかけになったのは、大学の文学部の史学科の入門ゼミでした。輪読の担当箇所を決めるとき、最初はやる気もなく自分の知っているところをやるうと思っていたんですが、ジャンケンで全敗しちゃったんですね。それで最初の希望からもうとも遠い「海とネットワーク」を担当することになったのですが、やってみると面白かった。そのころちょうどバツクパッカーでいるんなところに行っていたんですけど、旅行をする自分と海を行き来していた中世の人びとが重ね合わせられる気がしたんです。海の世界っていうのはいろんな人

が出会う場所、人びとが交わる様子がとても面白い。境界がはっきりした国民国家の世界観とは違って、領域的な意識があまりないカオス的なインド洋世界のあり方は、グローバル化していく現代に勉強する意味があるんじゃないかなと思っています。

最初は中世史をやっていたのですが、現在では、一九世紀以降の奴隷についての研究にも取り組んでいます。私の一番得意なのは自分の体を使って資料を集めたりすることなので、もつと近い時代のことを知りたいと思っただけです。そこでわかってきたのは、インド洋の奴隷交易は大西洋のように専門的な奴隷商人がやっていたんじゃない、誰でも参加していたということ。逆に言えば誰もが奴隷になりうるし、奴隷が奴隷を持っているということもありました。だから奴隷交易を切り口にして、インド洋世界のいろんな人の歴史に広がっていきけると思っただけです。奴隷の語りの資料からはその人たちのとてもミクロな世界が見えてきます。私が現地に行くのが好きなのはやっぱりいろんな人と出会えるから。歴史についても同じように顔が見えるような研究をしたいと思っています。

○友の会機関誌『季刊民族学』一六八号に鈴木先生ご執筆の記事が掲載されています。ぜひご覧ください。

○11月2日（土）友の会講演会にご登壇いただきます。

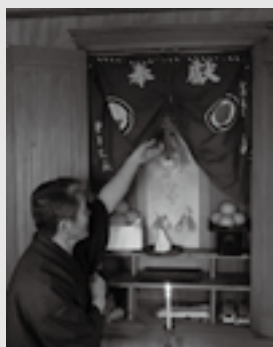
【実施報告】第80回体験セミナー

長崎県、潜伏キリシタンの足跡を訪ねる 生月島、平戸島、上五島をめぐる

講師：宮崎 賢太郎（長崎純心大学客員教授）
期間：2月22日（金）～25日（月）

潜伏キリシタンの歴史と現在をさぐるため、長崎県を訪ねました。県下の教会の多くは、禁教が解かれたのちに、カトリックに復帰した信者らが建てたものです。一方、祖先崇拝を土台に、潜伏時代の信仰形態をのこすカクレキリシタン（以下、カクレ）とよばれる人びとも存在します。旅行ではカトリックの教会とともに、カクレの聖地や信仰世界を紹介する博物館なども見学しました。

生月島では、カクレの信仰を継承するふたりの方から話をうかがい、ご神体を前にオラショ（祈り）を唱えていただきました。ひとりの方が属していた組織はすでに解散し、いまは「御堂」とよばれる建物で、ご神体を管理しています。博物館には個人では管理できなかったカクレの信仰道具が寄贈・展示されていました。生月・平戸一帯にカクレの信仰が広く分布していたことを知るとともに、共同体を維持し、信仰を継承していくことの難しさを実感しました。上五島では、キリシタンの移住の苦勞を、訪問先への移動をとおして体感しました。島の形状、教会の立地は、便利とはいえないものに感じられました。信仰のあり方を知るとともに、潜伏キリシタンの歴史を参加者ひとりひとりが再考する、そんな四日間でした。



右上：旧野首教会。教会が所在する野崎島は現在無人（スケッチ・梶田道行さん）
左上：御堂に祀られたお掛け絵
左下：石積み建築の頭ヶ島教会。建材となった砂岩は近隣の島から信者らが運び込んだ

「理事長徒然草」千里文化財団ホームページで連載中
第5話は「カクレキリシタンの旅に参加して」です。

■第489回■

「陽気な墓」をとおして
考える生と死

講師：新免光比呂(民博准教授)

日時：6月1日(土) 13時30分～14時40分

ルーマニアのマラムレシュ地方には「陽気な墓」と呼ばれる墓地があります。色とりどりの墓標が並ぶ姿は墓地の陰気なイメージを払拭します。しかし、死が陽気なものであるはずがありません。あえて陽気な墓標で死者を想起しているのはなぜでしょうか。生はつかの間の受苦であり、死は永遠の休息だからでしょうか。人により、民族により、時代により死の表象は異なります。しばし、死への想いを抱いて西欧文化を旅してみましよう。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

■第490回■

サウジアラビア女性の
日常世界のいま・むかし

講師：郡司みさお(片倉もとこ記念沙漢文化財団理事)

藤本悠子(片倉もとこ記念沙漢文化財団事務局主事)

日時：7月6日(土) 13時30分～14時40分

イスラームの聖地マッカ(メッカ)の近郊に位置するワディ・ファアティマは「水と緑に恵まれた」オアシスでした。交易路沿いの都市遺跡がみられ、多様な人びとが出会い、豊かな文化が育まれた場所です。一九六〇年代末以降、社会全体が急激な変化をむかえたなかで、文化人類学者の片倉もとこが出会った女性たちはどのような日々をおくってきたのでしょうか？片倉の撮影写真と最新の調査成果と共に、サウジアラビア女性の五〇年の生活変化をたどります。

※講演会終了後、解説付きで企画展の見学会をおこないます(40分)。「解説 縄田浩志(民博客員教授)」

※見学会にご参加の方は会員証もしくは展示観覧券が必要です。

■第126回東京講演会■

チワン(壮)族の
文化の資源化の現状

講師：塚田誠之(民博名誉教授)

日時：7月13日(土) 13時30分～14時40分

会場：モンベル御徒町店4Fサロン(定員：60名)

チワン(壮)族は、中国の五五の少数民族のうち最大の人口を有し、その多くが中国南部の広西壮族自治区に居住しています。歴史的に漢文化の影響を受容してきましたが、歌掛けやモチ米食品への嗜好性など独自性をも保持してきました。一九九〇年代以降、中国の経済発展にともない、かつて男女の歌掛けの際に用いられた「繡球」が商品化され、高床式住居が観光資源として活用されるなどの変化がみられます。本講演では、こうした事例をうけて文化の資源化について考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

※会員…無料、一般…500円

※要事前申込／実施一週間前を目安に参加証をお送りします。

イベントスケジュール

- 企画展「旅する楽器——南アジア、弦の響き」
開催中～5/7(火)
- 特別展「子ども／おもちゃの博覧会」
開催中～5/28(火)
- 企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——『みられる私』より『みる私』」
6/6(木)～9/10(火)

●友の会講演会

5/4(土・祝) 森下みさ子

6/1(土) 新免光比呂

●みんなくゼミナール(本館セミナー室ほか)

5/18(土) 関雄二

6/15(土) 西尾哲夫、縄田浩志、遠藤仁

●みんなくウィークエンド・サロン

5/12(日) 三島慎子

5/19(日) 鈴木七美

5/26(日) 八木百合子

6/9(日) 西尾哲夫

6/30(日) 韓敏

●その他の催し

5/18(土) 国際博物館の日記念事業

※先着順で記念品のプレゼントがあります。

6/16(日) みんなく映画会

みんなくワールドシネマ「サーミの血」

6/23(日) 音楽の祭日 2019 in みんなく

【東京】

5/25(土) トークイベント「ヒトってなんだ??——ホモ・サピエンスの誕生から文化の獲得まで」(会場：国立科学博物館)

◆都合によりスケジュールが変更になる場合があります。

◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



会員による
会員のための学習機会
みんなく友の会
雑学サロン

5/18(土) ぶらぶら民族学「今城塚と京大地震観測所」説明会
6/15(土) ぶらぶら民族学「日銀大阪支店と、その周辺」説明会

日程：第3土曜日15:30～16:30
会場：本館2階 第7セミナー室

申込不要
会場にて友の会
員証、フリーパスを
ご提示ください。

問い合わせ先：田和、谷北、山本(実行委員) zatsugakusalon@gmail.com

■第485回■2月2日(土)

アンデスの箱型祭壇が伝えるもの

——農村の生活から歴史記憶まで

八木百合子(民博助教)

「レタブロ」の名で知られるアンデスの箱型祭壇は、キリスト教の布教のためにスペイン人が持ち込んだ携帯型の祭壇に起源があります。当初、祭壇のなかには聖人や聖母の像が置かれ、先住民の教化の道具として使われてきました。やがて、牧民や

者たちは、自らの歴史を祭壇に残すだけでなく、暴力の真相究明に向けた願いや未来への希望もそこに託していったのです。

箱型祭壇は現在、さらなる進化をみせています。新しい世代の職人たちのなかには活動拠点を農村から首都リマを経て、海外へと広げるものも出てきました。現代の職人のあいだでは、アンデス農村の牧歌的な風景から一転、多様なテーマを扱う作品が生み出されており、箱型祭壇は地域や時代、社会を映し出す鏡にもなっています。

二〇世紀半ばになると、インディヘニスモ(先住民の独自文化を再評価しようとする動き)の影響もあり、箱型祭壇はペルーを代表する民衆芸術として脚光を浴びるようになります。農民の文化に対する関心が高まるなか、アンデス山岳地帯のアカクチョ出身の職人たちにより、農村の生活や祭りを描いた作品が次々に生み出されていきました。

一方、一九八〇年代からはテロ時代(一九八〇〜一九九〇年代初頭)の歴史を物語る作品も登場するようになりまし

た。テロの被害が大きかったアヤクチョでは、農民たちが経験した、虐殺、拷問などの場面を表した作品もつくられました。制作



テロの犠牲者と赤十字による救済

■第486回■3月9日(土)

キリスト教で読み解く韓国の歴史と文化

太田 心平(民博准教授)

東アジアのなかで韓国の文化がもつ特殊性のひとつとして、キリスト教の布教率の圧倒的な高さをあげることが出来ます。二〇一五年の統計で韓国の人口の約半数が「宗教がある」と答えています。そのうち過半数はキリスト教徒です。この講演会では、韓国でキリスト教徒が、いつ、どのように、どれほど増加したのかを、韓国の近世から現代にいたる歴史と並べて紹介しました。



講師が調査研究していた教会

韓国にキリスト教が多い理由の説明方法は、説明者の着眼点によりさまざまです。この講演会では、それぞれの説明方法の妥当性を、参加者とともに吟味しました。たとえば、政治的な説明として代表的なものに、植民地主義や軍事独裁体制への反発として、韓国の人びとが教会に集ったという話があります。ただ、この説明では、一九八七年の民主化宣言後にこそキリスト教人口の増加が著しいことに矛盾が生じます。経済的な説明として代表的な、戦争と都市化により地縁を失った人びとのあらたな縁づくりの場

として教会が好まれたという指摘についても、同様の時期のズレが確認できました。むしろ、そうした政治経済的な喪失を埋める心の拠り所として、あるいは新しいライフスタイルや出会いの場所として、教会が「当たり前なもの」になったのちにこそ、キリスト教の増加がみられるということが、参加者との議論から導き出されました。

また、韓国のカトリックとプロテスタントが、その他の国や地域とは違う点についても、写真をおみせしつつ紹介しました。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00〜17:00)

FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



春のご入会キャンペーン2019実施中!

友の会のご入会をプレゼントに!

国立民族学博物館友の会へのご入会を贈り物にしてみませんか。

送り主からのメッセージを添えて会員証をお届けします。

今なら、贈り主だけでなくご入会者様にも、ミュージアム・ショップでご利用いただけるプレゼント引換券を進呈いたします。

対象会員：正会員、ミュージアム会員【5月31(金)まで】